

平成 30 年度 公益社団法人日本動物学会 第 1 回理事会 議事録

1. 開催された日時 平成 30 年 8 月 31 日（水）17:00 – 18:00

2. 開催された場所 Web会議（Zoom）で実施

3. 理事総数及び定足数

総数 20 名 定足数 11 名

4. 出席理事数 14 名

（出席）岡 良隆、勝 義直、小金澤雅之、渡邊明彦、深津武馬、阿形清和、竹井祥郎、

安東宏徳、西田宏記、志賀向子、浮穴和義、植木龍也、広瀬裕一、吉田 学

（欠席）松島俊也、筒井和義、浅見崇比呂、松田恒平、飯田 弘、豊田ふみよ

（監事出席）武田洋幸、沼田英治

理事出席者 14 名、監事 2 名の出席を得て、理事会は成立となった。議長は、岡会長。

議事録署名人は、定款 35 条 2 項により、岡会長、武田監事、沼田監事。

4. 報告事項

○ 会長報告（岡 会長）

・寄付金の使途について

寄付金の使途についてはこれまで明示していなかったが、公益社団法人としては、寄付の使途は明確にして周知することが望ましい。そこで、まずは会員への周知を行うこととし、今年度の寄付使途としては以下の 2 点とすることが示された。(1) ZooDiversityWeb の維持管理及び更新のための経費。(2) 公益活動の一環として、本会監修の「シリーズ 21 世紀の動物科学（全 11 巻）」を希望する高等学校へ無償配布するための本の購入費用。税額控除団体と認定されるには 3,000 円以上の寄付が 100 件以上必要である。公益活動を支えるためにも、寄付の使途を明確にして運用していきたい旨の表明があった。

・会費振込手数料に関する寄付のお願い文について

会費をクレジット決済する場合の手数料について、先般より議論を行っているように本会の負担とせざるを得ないが、他の決済法と比較して手数料が高額（590 円）である。そこで理事会での議論を踏まえ、クレジットカードによる会費支払いをする会員には、5

年または6年に一度3,000円の寄付をお願いすることとなったことが報告された。本件は会員に周知するとともに、作成した文書をMLでも配信する予定である。

・生物科学学会連合SDGsシンポジウムにおけるスピーチについて

2018年10月1日に生物科学学会連合主催で開催される、SDGsに関するシンポジウムにおいて、本会より2名の参加が要請され、4分間のスピーチが求められている。岡会長と吉田庶務担当理事が参加予定であるが、SDGsに関する17項目を踏まえ、動物学会としてアピール出来るアイデアを出して欲しい旨、要請があった。9月の理事会でも引き続き話題としたい旨の表明があった。

○ 動物学国際交流セミナーの科研費との共催について（安東 国際交流担当理事）

札幌大会直前の9月11-12日に開催される第5回国際交流セミナーについて、世話人をお願いしている青沼仁志会員より、科研費・基盤S「昆虫のゾンビ化から紐解く生物の多様な振る舞いの源泉」との共催とし、招待講演者への謝金の一部を負担したいとの申し出があったことが報告された。本件については岡会長が既に了承した旨、あわせて報告された。

○ 動物学雑誌及び彙報の冊子体残部の引き取りについて（永井 事務局長）

事務局のスペース不足のため、動物学雑誌及び彙報の冊子体残部は2011年よりレタープレスに預けたままになっているが、このたび全てを事務局に一度引き取ることとなったことが報告された。本残部はまずは会員に周知して引き取り希望者を募り、それでも残部が出た場合は、歴史資料保存委員会で引き取ることで溝口会員と調整がついていることが示された。

○ キャリアパスに関する意識調査の結果報告（渡邊 将来計画担当理事）

先日実施したキャリアパスに関する意識調査について、現在取りまとめをすすめているおり、現時点での集計結果の概要が報告された。特にキャリア支援やマッチングに関する要望が多いため、9月の理事会において議論を行いたい旨、要請があった。

結果概要については9月の年次大会において報告を行い、その後に詳細な解析を進めて最終報告書を作成する予定であることが、あわせて示された。

6. 審議事項

第一号議案 平成29年度事業報告（案）について（資料1）

吉田庶務担当理事より、事前に配布された事業報告案に基づいての説明があった。特段の意見は無く、原案通り承認された。本案を持って社員総会に諮ることとなった。

第二号議案 平成 29 年度決算報告（案）について（資料 2）

志賀会計担当理事より、事前に配布された決算報告案に基づいての説明があった。特段の意見は無く、原案通り承認された。本案を持って社員総会に諮ることとなった。

第三号議案 平成 30 年～31 年度理事・監事の選任案について（資料 3）

岡会長より、H30~31 年度の理事・監事の選任案について説明があった。なお、監事に関しては、監事任期終了後に理事に選任される例が多く、公益社法人としては問題であることから、一名は会員経験が豊富な有識者として八杉会員を、もう一名は動物学会外から高橋氏を迎えることが提案された。特段の意見はなく、原案通り承認された。本案を持って社員総会に諮ることとなった。

・次回（平成 30 年度第 2 回理事会）は 2018 年 9 月 12 日 15 時より北海道大学理学部 5 号館 201 号室にて開催予定。この会は新理事候補者及び委員会メンバーのオブザーバー参加を要請している。

平成 30 年 月 日

上記の内容で相違ないことを証するため、ここに記名押印をする。

議 長 岡 良隆

議事録署名人 武田 洋幸

議事録署名人 沼田 英治

公益社団法人日本動物学会 平成 29 年度事業報告

1. 定時社員総会

平成 29 年 9 月 22 日(土)富山県民会館 〒930-0006 富山県富山市新総曲輪 4-18

議案

平成 28 年度 公益社団法人日本動物学会事業報告案

平成 28 年度 公益社団法人日本動物学会決算報告案（貸借対照表、損益計算書、及び財産目録）

2. 学術集会の開催

平成 29 年 9 月 21 日から 23 日まで、第 88 回日本動物学会大会を富山県民会館で開催。大会準備委員会を組織して、講演、シンポジウム、高校生発表等を行った。口頭発表 272 演題、ポスター発表 209 演題、高校生ポスター60 演題、シンポジウム 114 演題（本部企画を含め 23 企画）、関連集会 16 演題（4 企画）、公開講演会 7 演題。大会参加者 843 名（公益 1）

3. 学術誌の刊行

Zoological Science (ZS)の刊行（第 34 巻 4 号～第 35 巻 3 号）。800 頁。（公益 1）

ZS の編集は、編集委員会委員（海外委員 2 名を含む）が行った。編集委員会は年 1 回開催（公益 1）

Open Access ジャーナル Zoological Letters を出版した。OA ジャーナルのため、巻号はない。平成 29 年度の出版論文数は 22 論文である。2015 年 1 月の発刊から、最短の期間で、IF を取得、2017 年 IF は 2.9（公益 1）

4. Web による広報活動の促進とニュースの発行

HP を利用して、大学等研究機関による職員募集、科学者によるセミナー、シンポジウムの開催通知、動物学研究トピックスなどを随時掲載した。ニュースを月 1 回発行。

5. データベース構築(ZooDiversity Web)

新たに ZS に出版された論文が対象とする動物種を調査した。

Zoological Letters で発表された論文 22 論文についても動物種の調査を開始した

6. 研究の表彰**・日本動物学会賞**

会員を対象とし、動物学研究に新たな知見をもたらした研究に授与。本年は 1 件を、学

会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

伊藤悦朗 早稲田大学 教育・総合科学学術院、教授

『軟体動物腹足類の学習記憶機構の解明』

・日本動物学会奨励賞

会員を対象とし、今後の動物学研究を推進することが期待される若手研究者に授与。本年は3件を、学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

森山 実 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 生物プロセス研究部門、特別研究員

『昆虫類の環境適応に関する生態、生理、生化学的研究』

越智陽城 山形大学医学部 メディカルサイエンス推進研究所、准教授

『脊椎動物の組織・器官形成における遺伝子発現調節メカニズムとその進化の研究』

斎藤 茂 岡崎統合バイオサイエンスセンター 生理学研究所 バイオセンシング研究領域 細胞生理研究部門、助教

『温度感覚の種間多様性とその分子基盤の解明』

・Zoological Science Award

【受賞論文】

Migration of Tundra Swans (*Cygnus columbianus*) Wintering in Japan Using Satellite Tracking: Identification of the Eastern Palearctic Flyway. Wenbo Chen, Tomoko Doko, Go Fujita, Naoya Hijikata, Ken-ichi Tokita, Kiyoshi Uchida, Kan Konishi, Emiko Hiraoka and Hiroyoshi Higuchi *Zoological Science* 33(1): 63-72

Restructuring the Traditional Suborders in the Order Scleractinia Based on Embryogenetic Morphological Characteristics. Nami Okubo *Zoological Science* 33(1): 116-123

Comparative Analysis of Genome and Epigenome in Closely Related Medaka Species Identifies Conserved Sequence Preferences for DNA Hypomethylated Domains. Ayako Uno, Ryohei Nakamura, Tatsuya Tsukahara, Wei Qu, Sumio Sugano, Yutaka Suzuki, Shinichi Morishita and Hiroyuki Takeda *Zoological Science* 33(4): 358-365

Production of Knockout Mutants by CRISPR/Cas9 in the European Honeybee, *Apis mellifera* L. Hiroki Kohno, Shota Suenami, Hideaki Takeuchi, Tetsuhiko Sasaki and Takeo Kubo *Zoological Science* 33(5): 505-512

Wing Scale Orientation Alters Reflection Directions in the Green Hairstreak *Chrysozephyrus smaragdinus* (Lycaenidae; Lepidoptera). Michio Imafuku and Naomichi Ogihara *Zoological Science* 33(6): 616-622

・日本動物学会女性研究者奨励 OM 賞

安定した身分で研究を続けることが困難であるが、強い意志と高い志を持って研究に意

欲的に取り組もうとする女性研究者に対して、OM 賞選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。(公益 1)

夏堀晃世 東京都医学総合研究所 精神行動医学研究分野、主席研究員

『動物の睡眠覚醒に関わる脳部位における神経細胞内 ATP 変動の解明』

山寄敦子 筑波大学生命環境系、学振 RPD

『棘皮動物の骨形成機構の進化に関する研究』

・成茂動物科学賞基金奨励賞

動物学の全分野でユニークな研究を展開する会員を振興賞の候補者とする。学会賞等選考委員会の審議を経て、理事会の審議により以下のように決定した。

高梨琢磨 国立研究開発法人 森林総合研究所 森林昆虫研究領域、主任研究員

『振動によるカミキリムシの行動制御機構と害虫防除への応用』

・補助金 (川口基金)

海外国際会議に出席する若手研究者を対象に、渡航費を補助する。学会賞等選考委員会による審査を経て、理事会の審議により決定した。

孫 ユリ (早稲田大学)

加用大地 (東京大学)

・動物学教育賞

活発な啓蒙活動等により動物学の社会への普及に著しく貢献した個人または団体とし、本学会の会員・非会員を問わない。国籍も問わない。理事で構成する委員会で審議し、理事会の審議により以下のように決定した。(公益 1)

秋山繁治 南九州大学 教養・教職センター、教授

『「動物学」を中心に据えた女子生徒の理系進学支援の教育プログラム開発と実践』

8. **動物学の普及活動、生物科学学会連合による生物学の連携、協調活動**

国際生物学賞、国際生物学オリンピックの推進を図り、支援を行った。また、生物科学学会連合活動を生物系学会と連携して推進した。(公益 1)

9. **委員会の活動**

(広報委員会)

1. 9月に広報委員会を開催し、広報委員会の役割、今後の課題等を議論した。
2. IT委員会と協力し、学会ホームページのリニューアルについて議論した。
3. 広報理事メール宛に届いた学会ホームページ掲載希望メールを整理・編集し、学会事

務局へダイレクトメール配信依頼を行った。

4. 広報理事は、教員等公募情報、研究助成情報、研究集会情報、トピックス記事について、広報委員が月当番で学会ホームページへ情報をアップする指示・確認を行った。最終的に、学会ホームページのトップページの TOPICS&NEWS 欄を更新した。
5. 広報委員は、月当番にて教員等公募情報、研究助成、研究集会、トピックス記事について、学会ホームページへ情報をアップした。
6. 学会賞等応募締切情報、学会賞受賞情報等を学会ホームページへアップした。
7. 毎月 1 日に、前月に送付された会員ダイレクトメールを編集し、メールマガジンとして会員へ配信した。
8. 学会ホームページ上の Zool. Sci.誌の最新号表紙を更新した。

(図書委員会)

Springer Series “Diversity and Commonality in Animals” および丸善出版「動物学百科事典」の出版事業が、本委員会の前々委員長以来 3 期にわたり継続しており、進行状況は以下の通りである。

1. Series “Diversity and Commonality in Animals” (Springer)

前々委員会の委員および前委員長が企画済 5 巻の Series Editors を務めている。Series Editors: Takahiro Asami, Kazufumi Takamune, Hiroshi Kajihara, Kazuya Kobayashi, Hideaki Takeuchi, Kiyosi Naruse, Masaharu Motokawa, Akiko Satoh, Michiyasu Yoshikuni, Osamu Koizumi.

- ・ Vol 1. Species Diversity of Animals in Japan 既刊
Editors: Masaharu Motokawa, Hiroshi Kajihara
- ・ Vol 2. Brain Evolution by Design 既刊
Editors: Shuichi Shigeo, Yasunori Murakami, Tadashi Nomura
- ・ Vol 3. Reproductive and Developmental Strategies 既刊
Editors: kazuya Kobayashi, Takeshi Kitano, Yasuro Iwao, Makiko Kondo
- ・ Vol 4. Animal Behaviors (仮題)
- ・ Vol 5. Endocrine Systems in Animals (仮題)

以降の Volumes について：これまでに理事会で確認された通り、Springer の意向を受けて本シリーズを継続刊行する方針にもとづき、現委員長のもとに出版・図書委員を刷新し、Vol 6 以降の新たな企画を立てるほかに、学会員に企画を募集する計画にある。

2. 動物学百科事典 (丸善出版)

2018 年 9 月の刊行 (札幌大会に間に合うよう) に向けて最終校段階にある。

(男女共同参画連絡会)

1. 女子中高生夏の学校 2017 (平成 29 年 8 月 5 日 8~7 日、国立女性教育会館 (NVEC)) の開催にグッズ (絵葉書、マグネット) 提供で協力をした。
2. 第 15 回男女共同参画学協会連絡会シンポジウムが 2017 年 10 月 14 日 (土) 東京大学 共通講義棟で開催され、正会員である動物学会から男女共同参画委員が参加し、ポ

スター発表および資料集での活動報告を行った。

3. 大規模アンケート「第4回科学技術系専門職の男女共同参画実態調査（2016年11月実施）」の日本動学会会員の回答分の解析を開始した。
4. 2017年9月22日第88回日本動物学会富山大会にてランチョン企画:「ワーク・ライフ・バランスを考える～研究に集中できる環境づくりとは～」を開催した。委員の方から、第4回大規模アンケートの全体の解析結果の概要についてと沖縄大会でのグループディスカッションの様子についての説明が行われた。その後のグループディスカッションでは「キャリアパス」、「育児・子育て」、「共働き・単身赴任」、「介護」のテーマで活発な意見交換がなされた。グループ討論や当日行われたアンケート結果を報告書にまとめた。
5. 2017年9月より今日に至るまで、将来計画委員会と合同でキャリアパス小委員会を継続してついに2018年6月「キャリアパスに関する意識調査（アンケート）」を実施、キャリアパス小委員会が中心となって現在解析作業を進めている。

（将来計画委員会）

1. キャリアパスに関する意識調査について
メール会議を通して前年度から継続して作成を進めたアンケートの設題のフローチャートをさらに改定し、Google forms を利用してアンケートフォームを作成した。9月20日の委員会でフローチャートを概ね承認し、理事会にキャリアパスに関する意識調査の実施を提案し、設問のフローチャートを併せて了承された。メール会議を通してアンケートフォームの改定を進め、完成版を3月7日の理事会に報告し、審議・承認された。アンケートの実施期間を6月1日から15日として、3月から複数回会員に周知するとともに、調査期間に先駆けての回答にも対応した。その結果、調査期間終了時に総数568件の有効回答が得られた。キャリアパス小委員会、男女共同参画委員会と連携して内容の精査を行い、2018年9月の次回学会大会での中間報告を行うために結果解析の準備を始めた。
2. Zoological Science の高校生に対する無料開放について
前年度に引き続き、教育委員会、ZooDiversity Web 委員会、Zoological Science 編集委員会と連携して無料公開の実施のための作業を進め、9月2日の理事会で、1) 著作権は動物学会にあるため無償公開に支障がないこと、2) ZooDiversity Web を通しての公開の工程に大きな問題がないこと、3) 高等学校のカリキュラムへの探求科目の導入などにより高校側にも一定の需要が見込まれることを報告した。審議の結果、学会本部主導で無料公開を実施することが承認され、併せて将来計画委員会は本件の実務には携わらないこととなった。

（教育委員会）

教育委員会は、昨年度に引き続き以下の活動を進めた。

1. 動物学会が取り組むべき高校生（中学生・小学生）に対する理科教育のサポートとは何であるのかを議論する。特に各支部の支部大会を中心に実施される高校生発表のあり方（どのような方式が高校生にとっていいのか、どのような形式が動物学会として

求められる形式であるのか)などを議論し、高校生(中学生・小学生)の科学に対する意識・意欲をより高めることができるサポート体制を整える。

→ 現在話し合い中であるが、「3」においてホームページ上で各支部での高校生企画の掲載の構想を練っている。さらに、高校における動物実験や遺伝子組み換え実験のあり方(進め方)などの情報を集め、それに対して、今後学会としてどう取り組むのかを検討したいと考えている。

2. 各支部の支部大会を中心に高校生研究発表等、生徒・児童の学習支援、啓蒙活動を実施する。なお、現在予定されている各支部の活動は以下の通りである。また、各支部で実施される企画を精査し、動物学会の教育活動として優れた活動・企画を各支部で積極的に採用してもらえるように働きかける。

→ 昨年度に引き続き、各支部における教育関係の企画について報告を受け、その情報をすべての支部の教育担当委員の先生方と共有した。なお、各支部の企画については下記に記している。

3. 高等学校教員を対象にホームページに開設している「動物学 Q&A」について。現在、質問数が極端に少なく実質的に稼働していない。その活性化の方策を検討・実施する。
→ 「動物学 Q&A」は、稼働率を考慮して休止することに決定した。これに替わるものとして、「2」で記載している各支部による企画(高校生向け)をホームページで紹介するコーナーを設けることを考えている。今後、どのような形式にするのか、誰が更新するのか、などクリアすべき問題を精査して、話を進めたいと考えている。

(国際交流委員会)

1. 日本動物学会第 88 回富山大会で開催される第 4 回動物学国際交流セミナーの準備を進めた。セミナーを周知するため、情報を大会 HP に掲載すると共に会員にメール配信した。
2. 日本動物学会第 88 回富山大会において、第 4 回動物学国際交流セミナーを開催した。9 研究教育機関から 16 名(教職員 9 名、学生 7 名)の参加者があり、海外招待者 1 名の講演および参加者の研究発表、研究交流を行った。
 - 日時：平成 29 年 9 月 23 日(土)～ 24 日(日)
 - 場所：浜黒崎キャンプ場内松原荘(〒931-8414 富山市浜黒崎 3385-1)
3. 日本動物学会第 88 回富山大会において、国際交流委員会を開催した(出席者 5 名)。動物学国際交流セミナーの企画に関する理事会での議論を報告すると共に、今後の国際交流委員会の企画及び学会の国際化について議論した。動物学国際交流セミナーについては、これまで行ってきた合宿形式による交流企画を大会に連結させて行うことをしばらく続けるのがよいという意見に賛同が得られた。
4. 日本動物学会第 89 回札幌大会において、第 5 回動物学国際交流セミナーを、本大会の前に 1 泊 2 日の合宿形式で、松島理事(北大)が企画している日独サマースクールと連携して開催する方向で検討を進めた。
5. 第 5 回動物学国際交流セミナーの企画案についてメール審議した。青沼国際交流委員を世話人として、下記の予定で開催することを承認した。
 - 日程：平成 29 年 9 月 11 日(火)～ 12 日(水)

- 場所：北海道大学学術交流会館（セミナー）および札幌市アイヌ交流センター（懇親会）、湯元小金湯（宿泊）

（IT委員会）

1. 第 88 回日本動物学会富山大会における演題検索システムの管理運営を行った。
2. 2017 年 9 月 20 日、富山大学理学部講義棟 A239 号室において、IT 委員会会合を開催し、富山大会における参加登録システム・演題登録システム・演題検索システムの管理運営に関する検証と、次回の札幌大会に向けた問題点について検討した。
3. 12 月～2019 年 4 月、第 89 回日本動物学会札幌大会の参加・演題登録システムについて、昨年の合同大会で用いたシステムを元に基本設計を行い、外注業者の作成した試作システムを検証しながら構築作業を行った。2018 年 3 月 5 日に web 会議を行い、Web サイト更新並びに札幌大会における参加登録システムに関する検討を行った。最終的に完成したシステムの動作確認を行った。
4. 2018 年 4～6 月に札幌大会の参加・演題登録システムを運用し、管理運営を行った。
5. 動物学会の web サイトの全面リニューアルを目指し、下記の活動を行った。
 - (1) 2017 年 9 月 20 日、富山大学理学部講義棟 A239 号室において、広報委員会と合同で動物学会 web サイト更新 WG を開催し、業者からの見積を基に、更新の方針並びに委託先の検討を行い、これまでと同じく（株）ダイナックスにサイト作成及び管理を依頼し、CMS は wordpress を使用することとした。
 - (2) 2017 年 12 月 1 日 阿部 IT 委員会委員と共にダイナックスと Web サイト更新並びに札幌大会における参加登録システムに関する実務打合せを行い、新サイトの構成についての概案を決定した。
 - (3) 2018 年 3 月 23 日に東京駅周辺にて阿部委員及び永井事務局長と共に（株）ダイナックスとの打合せを行い、Web サイト更新並びに札幌大会における参加登録システムに関する打合せを行った。支部サイトを構築するための親となるメールアドレスを取得し、準備を開始した。
 - (4) 2018 年 5 月に新ページのサンプルページをダイナックスより受け取り、デザインを決定した。

（ZDW委員会）

ZooDiversity Web (ZDW)は動物の学名や普通名で Zoological Science (ZS)に掲載された論文を検索できるデータベースで、ZS の国際的な引用向上に役立つことを目指している。また、ZS と Zoological Letters (ZL) をリンクするプラットフォームとしても役立てたい。本委員会では ZDW の運営・データ更新に必要な作業を担当する。

平成 30 年 2 月 2 日に東京で委員会を開催した他、恒常的にメール会議の形で議論を行った。

1. ZDW のデータ更新

現在まで発行された ZS の論文についての検索用データを更新した。

論文に voucher specimen (証拠標本) の記載が含まれものについて、「赤いタグ」のアイコンを作成し、論文検索時に表示されるようにした。

2. Early View の掲載について

昨年度取り決めたルールに従い、ZS に受理された論文の最終原稿を Early View として掲載した。

<参考：Early View の掲載についての取決め>

Early View は本論文掲載までのつなぎであるため、1年単位で更新（削除）する。

Early View への掲載が国際動物命名規約に抵触する可能性があるため、該当論文は掲載対象に含めない。

3. ZDW の表示改善と不具合解消

web site の管理会社 (Dynax) に表示改善と不具合解消を依頼し、以下については整備された。

- ・ 本棚表示の改善、Issue List と本棚をリックして表示
- ・ Voucher specimen を含む論文の icon 表示
- ・ Virtual Issue の表紙写真表示
- ・ Advanced Search の「search/clear」ボタンの移動

ZL を検索対象としたときに必要な、URL でリンクした文献の表示についてはシステムの改修を伴うため、現在作業中となっている。

4. 検索対象の拡大についての検討

検索対象に Open Access 誌である ZL を加えるため、ZL の論文についても検索用データを作成した。ただし、システムの改変が必要なため、ZDW の検索にはまだ反映できていない。

ZDW において「動物学雑誌」および「日本動物学彙報 Annotations Zoologicae Japonensis」の検索・ダウンロードを可能にすること検討し、科研費の「国際情報発信強化」に申請したが不採択であった。本事業には予算獲得が必須であるため、当面は同文献のデータベース化は見送り、科研費への申請を再度行うなどを検討することになった。

5. Virtual issue の企画・編集

第4 issue となる「Developmental Biology of Ascidian」を公開した。第5 Issue は編集を完了しているが、本 issue には ZS の ii 前身である動物学雑誌・動物学彙報の論文が含まれているため、web システムの改修（作業中）が必要であり、現時点では公開を保留している。また、印刷の issue とは異なり公開後も改変が可能な電子媒体の特性を活かして、第3 issue は新たに論文を追加したアップデート版を公開した。さらに、issue のリストに画像を掲載できるようシステムを改修し、第2 issue の表紙写真を追加公開した。今後も virtual issue を追加してゆく上で、円滑に公開が進められるよう、issue editor 向けの「virtual issue 作成様式」を整備し、現在編纂中の第6 issue で適用を試行する。

6. ZS の高校への無償公開について

高校への ZS 無償公開を行う上で、ZDW が公開のプラットフォームとなることを想定し、日本語版の検索マニュアルを ZDW に掲載・ダウンロードできるようにした。

7. ZDW の普及について

国際学会やシンポジウムなどで配布することを目的に、フライヤー（英語版）を作成し、配布活動を行った。

平成 29 年年 9 月動物学会富山大会の展示ブースにおいて、ZDW を用いた検索の実演

を行った。

8. ZDW の維持・更新予算について

科研費による助成が平成 30 年 3 月に終了したため、4 月以降の維持・更新に伴う費用については、日本動物学会の予算に組み込まれることとなった(平成 30 年 6 月 2 日 理事会承認)。

10. 支部による活動

(北海道支部)

今期、北海道支部は第 62 回北海道支部大会を開催した。計 8 回の支部講演会を実施した。また第 89 回動物学会大会(平成 30 年 9 月 13~15 日札幌コンベンションセンター)の準備を進めた。

1. 平成 29 年度、第 62 回北海道支部大会

平成 29 年 8 月 26 日(土)午前 9 時から午後 18 時まで、北海道大学理学部 5 号館(201 号室とその周辺)を会場として実施した。参加者は 89 名、このうち北海道内の中学・高等学校(計 10 校)からの参加者が引率の先生方を含み 53 名、一般会員・大学院学部の学生が 36 名。主なプログラムは以下の通り。

- ・ 大学院生による口頭発表 4 題(優秀発表者選考対象)
- ・ 講演会「北海道の哺乳類」 2 題
 - (1) 山田弘司(酪農学園大学)「人と一緒に生かされる馬の能力」
 - (2) Nina Patzke(北海道大学)「Comparative aspects of the mammalian brain with a closer look on the Hippocampus」
- ・ 中高校生による特別発表(口頭発表) 6 題
- ・ 中高校生による特別発表(ポスター発表) 8 題
- ・ 支部総会
- ・ 一般会員による口頭発表 4 題
- ・ 表彰式、懇親会

なお、特別発表を行った中高校生の所属校(全 10 校)は以下の通り(50 音順)。また、遠隔地からの出席者については旅費の一部を支援した。釧路湖陵高等学校、札幌市立札幌大通高等学校、札幌日大高等学校、北海道立旭川西高等学校、北海道立北見北斗高等学校、北海道立滝川高等学校、北海道立札幌旭丘高等学校、北海道立富良野高等学校、立命館慶祥高等学校、稚内市立稚内中学校(引率は北海道立稚内高等学校)。

2. 北海道支部講演会

(1) 第 574 回支部講演会

平成 29 年 7 月 14 日 17:00~

北海道大学理学部 5 号館(高層棟) 813 号室

演者: 竹本 研(横浜市立大学医学部生理学教室)

演題: 蛋白質が持つ時空間的性質の解明を可能にする光不活化技術の開発

(2) 第 575 回支部講演会

平成 29 年 7 月 26 日 17 : 00~

北海道大学理学部 5 号館 8-813 号室

演者 : 三谷 曜子 (北海道大学北方生物圏フィールド科学センター (函館))

演題 : Movements of killer whales off Hokkaido 北海道沿岸のシャチの動き

(3) 第 576 回支部講演会

平成 29 年 8 月 8 日 16 : 30~

北海道大学理学部 5 号館 8-813 号室

演者 : 越智 陽城 (山形大学医学部メディカルサイエンス推進研究所)

演題 : 二倍体と四倍体のカエルのゲノムに刻まれた遺伝子発現調節の進化

(4) 第 577 回支部講演会

平成 30 年 2 月 8 日 16 : 00~17 : 00

北海道大学理学部 5 号館 407 号室

演者 : 佐竹 炎 (公益財団法人サントリー生命科学財団)

演題 : ホヤが教える脊索動物の内分系・神経系の進化と多様性

(5) 第 578 回支部講演会

平成 30 年 4 月 26 日 17 : 00~18 : 00

会場 : 旭川大学図書館 1 階ディスカッションスペース

演者 : 柳町隆造 (ハワイ大学医学部)

演題 : What I did and what I learned

(6) 第 579 回支部講演会

平成 30 年 4 月 27 日 17 : 00~18 : 00

会場 : 北海道大学 地球環境科学研究所 D201(D 棟 2 階)

演者 : 斎藤成也 (国立遺伝学研究所集団遺伝研究部門)

演題 : ゲノム時代の生物進化研究とは?

(7) 第 580 回支部講演会

平成 30 年 5 月 18 日 17 : 00~18 : 00

会場 : 北海道大学理学部 5 号館 5-813 号室

演者 : Ayako Yamaguchi (山口文子、Department of Biology, The University of Utah)

演題 : Neurobiology of vocal production in frogs

(8) 第 581 回支部講演会

平成 30 年 6 月 19 日 17 : 00~18 : 00

会場 : 北海道大学理学部 5 号館 5-407 号室

演者 : Prof Paul R. Manger (School of Anatomical Sciences, University of the Witwatersrand, Johannesburg, South Africa)

演題 : Out of Africa, there is always something new - the unusual brains of some African mammals

3. 第 89 回動物学会大会準備

山下正兼委員長の下に大会実行委員会を組織し、学会事務局・学会長・理事会と密接な連携を取りつつ大会準備を進めた。これに伴い、平成 30 年度の定例支部大会および総会

は実施しないこととした。

(東北支部)

1. 日本動物学会北海道支部平成29年度支部大会
実施日：平成29年7月29日(土)・30日(日)
会場：青森県青森市東北大学大学院生命科学研究科附属
浅虫海洋生物学教育研究センター
演題数：一般口演 20題、高校生発表 13題
参加者数：46名
2. 中高生による科学研究発表会、および親子で楽しむ動物学 17「探せ！シークレットフ
イッシュ」
実施日：7月30日(日) 13:30～16:30
会場：青森県営浅虫水族館
研究発表 26題。
参加者数：一般 66名、高校生 44名、中学生 19名、小学生 6名。
3. フォトコンテスト
応募数：23作品
受賞：最優秀賞 1作品、優秀賞 2作品、特別賞 2作品。
4. 平成30年度支部大会、高校生研究発表、親子で楽しむ動物学、フォトコンテストの実
施に向けて調整を進め、作業を行った。
5. 東北支部役員会を7月29日(土)に開催した。
議事：
 - ・ 理事会報告
 - ・ 支部予算・決算報告
 - ・ フォトコンテストの審査結果報告
 - ・ 東北支部高校連携WGからの報告
 - ・ ORCIDについて

(関東支部)

1. 支部主催公開講演会の実施
日時: 2017年7月22日(土) 13:00-16:30
会場: 東京大学理学部2号館講堂
プログラム: 『塗り替えられる動物の進化の歴史』
 - ・ カンブリア爆発における動物の多様化(更科功: 東京大学総合研究博物館)
 - ・ 胎児期に刻まれた進化の痕跡(入江直樹: 東京大学大学院理学系研究科)
 - ・ ホネから探る哺乳類の生き様と進化(小藪大輔: 東京大学総合研究博物館)参加人数: 約190名
2. 支部大会・支部総会の実施
日時: 2018年3月21日(祝) 10:00-19:00

会場: 上智大学四ッ谷キャンパス (大会長: 安増茂樹 会員 (上智大学))

プログラム:

9:30- 受付開始・ポスター掲示

10:00-12:00 公開シンポジウム『魚類の多様な世界～魚はどのように進化したのか～』

- ・ 日下部りえ「ヤツメウナギとサメから探る、脊椎動物の初期進化」
- ・ 川口眞理「タツノオトシゴの育児嚢—その形成メカニズムと進化—」
- ・ 二階堂雅人「アフリカの湖で起きた適応放散—シクリッド進化の分子基盤に迫る—」
- ・ 佐野香織「硬骨魚類の多様な孵化機構: 卵膜遺伝子と孵化酵素遺伝子の共進化」

12:10-13:00 総会 (2号館 401 講義室)

13:00-14:00 昼休み

14:00-16:00 ポスター発表(一般発表 94 演題、中・高校生発表 25 演題)

17:00-19:00 懇親会 (13号館 303 室)

3. 支部代表委員、支部委員選挙の実施

4. 動物学の普及活動

(中部支部)

1. 平成 29 年度中部支部大会を以下の通りに行った。

日程: 平成 29 年 12 月 9 日(土)、10 日(日)

1 日目: 研究発表会 (口頭・ポスター), 支部会議, 総会, 懇親会

2 日目: 公開シンポジウム「若者のための生態学アラカルト—機能・共生・言語—」

会場: 岐阜大学応用生物科学部 (岐阜市柳戸 1-1)

実行委員会: 岩澤 淳, 山本 謙也, 古屋 康則, 岡本 朋子

2. 平成 30 年度中部支部大会の準備を以下の通りに進めた。

日程: 平成 30 年 12 月 8 日(土)、9 日(日)

会場: 名古屋大学東山キャンパスでの開催予定。

実行委員会: 田中実, 大隅圭太, 澤田均, 小橋常彦, 金森章, 八木克将, 橋本寿史, 石川由希, 西村俊哉

(近畿支部)

1. 近畿支部推薦の各種委員を決定した。

2. 2017 年度日本動物学会近畿支部秋季支部委員会を以下の通り開催した。

日時: 2017 年 11 月 18 日(土) 11:00~12:00

場所: 滋賀県立琵琶湖博物館 セミナー室

〒525-0001 滋賀県草津市下物町 1091

出席者:

西田 宏記 支部長、佐藤 ゆたか 支部代表委員、
支部委員：尾崎 まみこ、橘木 修志、寺北 明久、中川 将司、久富 修、古屋 秀隆

- (1) 支部長報告・理事会報告
- (2) 2017 年春季支部委員会の議事録承認
- (3) 2017 年度(平成 29 年度)会計中間報告
- (4) 近畿支部の今後の活動予定
- (5) その他

3. 近畿支部の秋季講演会と高校生による研究ポスター発表を開催した。

講演会タイトル：琵琶湖をめぐる生き物たち

開催日時：2017 年 11 月 18 日(土) 13:00～16:30

開催場所：滋賀県立琵琶湖博物館 1F セミナー室

講演者：

桑原 雅之氏（琵琶湖博物館）

「琵琶湖水系に生息するビワマスとアマゴの関係」

鈴木 隆仁氏（琵琶湖博物館）

「琵琶湖周辺のイタチムシたち」

高校生による研究ポスター発表

参加高校：

滋賀県立河瀬高等学校

滋賀県立虎姫高等学校

滋賀県立彦根東高等学校

大阪府立富田林高等学校

4. 2019 年動物学会大会を近畿で行うように依頼されている。各方面と協議の結果、以下のように概要を決定した。

(1) 準備委員

寺北会員が準備委員長として大阪市立大学で開催する

(2) 日程

2019 年 9 月 12 日（木）～14 日（土）

(3) 会場

- ・ 12 日と 14 日

大阪市立大学杉本キャンパス（大阪市住吉区、最寄り駅は JR 杉本町、地下鉄あびこ）

- ・ 13 日

大阪国際交流センター（大阪市天王寺区、最寄り駅は地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町）の予定

(4) 懇親会（13 日）：シェラトン都ホテル大阪（地下鉄谷町九丁目、近鉄上本町駅前、国際交流センターから徒歩 10 分程度（700m））

5. 近畿支部の春の支部委員会を開催した。

日時：2018 年 5 月 12 日（土） 13:30 より 18:00 まで

会場： 京都大学理学研究科 2 号館 1 1 3 号室

報告及び議題：

- (1) 支部長報告・理事会報告
 - (2) 2017 秋季支部会の議事録承認
 - (3) 2017 年度(平成 29 年度)会計報告
 - (4) 近畿支部の今後の活動予定
6. 近畿支部研究発表会を行った。
日時：2018 年 5 月 12 日（土） 13:30 より 18:00 まで
会場：京都大学大学院理学研究科 2 号館第一講義室
13 演題の発表があった。

(中国四国支部)

1. 平成 29 年 11 月 12 日（日）に山口大学吉田キャンパスにて実施された山口大学理学部サイエンスワールド 2017～さあ来い!アーティスティック・サイエンスフェスタ～を後援した。企画展示ブース 13 件、博物館展示ブース 4 件、科学アトラクション 7 研究室、そのほか 山口情報芸術センターとのコラボレーション企画、参加者：来場者 1159 名、主催者側：約 100 名。
2. 平成 29 年 12 月 9 日（土）に愛媛大学理学部にて愛媛県例会を開催した。演題数は 6 件、参加者は約 30 名。
3. 平成 29 年 12 月 15 日（金）に岡山大学理学部にて岡山県例会を開催した。演題数は 1 件、参加者は 40 名。
4. 平成 29 年 12 月 16 日（土）に高知大学理学部にて、土佐生物学会第 110 回大会（高知県例会）を開催した。演題数：口頭発表 14 件、ポスター発表 15 件、特別公演 1 件、参加者：98 名。
5. 平成 30 年 3 月 8 日（木）広島大学大学院理学研究科にて広島県例会を開催した。演題数は 22 件、参加者は 38 名。
6. 平成 30 年 5 月 12 日（土）～13 日（日）山口大学吉田キャンパスにて、第 70 回中国四国支部大会を開催した。演題数 27 題（口頭発表 13 題、ポスター発表 14 題）であった。動物学会員の参加者は 47 名であった。このほかに、高校生ポスター発表 44 件と公開シンポジウム「秋吉台の自然とその魅力 ～時間・空間・生きもののつながりから読み解く～」を中国四国植物学会および日本生態学会中国四国地区会と合同で開催した。
7. 平成 30 年 5 月 12 日（土）に、山口大学吉田キャンパスにて、中国四国支部役員会を開催し、支部の事業計画、予算等について審議した。
8. 平成 30 年 5 月 13 日（日）に山口大学吉田キャンパスにて、中国四国支部総会を開催し、平成 30 年度若手研究者優秀発表賞 2 件の表彰、支部の事業計画および予算等についての審議を行った。

(九州支部)

1. 三学会合同鹿児島例会
日時：2017 年 7 月 8 日（土） 13:30-16:00
場所：鹿児島大学理学部 2 号館 211 教室

参加者数：15～20名

2. 中国四国地区・九州地区合同研修会
日時：平成29年9月2日（土曜日、13:00より）、3日（日曜日、12:00まで）
場所：下関市火の山ユースホステル「海峡の風」
参加者63名 発表演題数：28
3. 三学会合同佐賀例会
日時：2017年11月11日（土）13:00-17:00
会場：佐賀大学農学部1号館1階1S-124 第3講義室
4. 三学会合同宮崎例会
日時：2017年11月12日（日）13:00-15:00
5. 三学会合同沖縄例会
日時：2017年11月18日（土）14:00-16:10
会場：琉球大学理学部理系複合棟1階102教室
参加者数：25名
6. 三学会合同熊本例会
日時：2017年11月25日（土）13:00～16:30
場所：熊本大学 黒髪南キャンパス 理学部3号館2階D201
演者と演題（敬称略）
参加者数：21名
7. 三学会合同長崎例会
日時：2017年12月9日（土）13時30分～
場所：長崎大学水産学部大会議室14時40分～14時55分
参加者数：21名
8. 三学会合同鹿児島例会
日時：平成29年12月9日（土）午後2時30分より午後4時
場所：鹿児島大学理学部3号館2階321号講義室
高校生の研究発表および一般講演
参加者数：約30名
9. 三学会合同大分例会
日時：2017年12月16日（土）10:00～15:30
場所：大分大学工学部理工大講義室（104号教室）
10. 三学会合同福岡例会
日時：2017年12月16日（土）13:00～15:30
場所：九州大学理学部講義棟（ウエスト1号館1階 ビックリーフ）202号室
参加者数：約15名
動物学会としての演者：太田耕平先生（九州大学・農学研究院）
演題：『魚類の性転換と生殖腺における性的可塑性』
11. 熊本大学理学部主催公開実習「遺伝子を見てみよう」
日時：2017年12月17日（日）
場所：熊本大学理学部

対象：熊本県内の高校生

参加者数：8名

12. 三学会合同沖縄例会（沖縄生物学会と共催）

日時：2018年5月19日（土）

場所：沖縄県立芸術大学首里当蔵キャンパス一般教育棟3階（大講義室）

参加者数：80名

13. 第71回 日本動物学会九州支部大会

日時：2018年5月25日（土）～26日（日）

会場：宮崎大学花木キャンパス教育学部講義棟

口演17題、高校生ポスター発表 8題

貸借対照表

平成30年 6月30日現在

公益社団法人 日本動物学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	16,381,099	18,170,966	△ 1,789,867
未収金	593,200	839,500	△ 246,300
前払金	2,941,565	2,399,430	542,135
立替金	3,997,320	776,248	3,221,072
流動資産合計	23,913,184	22,186,144	1,727,040
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金：三菱東京UFJ銀行 春日町支店	10,000,000	10,000,000	0
定期預金：みずほ銀行 本郷支店	2,000,000	2,000,000	0
基本財産合計	12,000,000	12,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	11,155,642	10,275,242	880,400
OM賞基金資産	11,012,577	10,012,557	1,000,020
川口基金資産	6,411,282	5,379,090	1,032,192
特定資産合計	28,579,501	25,666,889	2,912,612
(3) その他固定資産			
図書	250,000	250,000	0
什器	1	1	0
電話加証	72,800	72,800	0
保入	554,540	554,540	0
その他固定資産合計	877,341	877,341	0
固定資産合計	41,456,842	38,544,230	2,912,612
資産合計	65,370,026	60,730,374	4,639,652
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	469,745	955,957	△ 486,212
前受金	6,823,000	7,039,000	△ 216,000
前受り	5,479,200	5,457,500	21,700
未払消費税等	383,419	319,073	64,346
流動負債合計	242,600	259,300	△ 16,700
13,397,964	14,030,830	△ 632,866	
2. 固定負債			
退職給付引当金	11,155,642	10,275,242	880,400
固定負債合計	11,155,642	10,275,242	880,400
負債合計	24,553,606	24,306,072	247,534
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	27,922,237	28,390,079	△ 467,842
指定正味財産合計	27,923,859	28,391,647	△ 467,788
(うち特定資産への充当額)	17,423,859	15,391,647	2,032,212
2. 一般正味財産	12,892,561	8,032,655	4,859,906
正味財産合計	40,816,420	36,424,302	4,392,118
負債及び正味財産合計	65,370,026	60,730,374	4,639,652

正味財産増減計算書

平成29年 7月 1日から平成30年 6月30日まで

公益社団法人 日本動物学会

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用利益	4,200	4,211	△ 11
基本財産受取利息	4,200	4,211	△ 11
特定資産運用利益	2,800	2,807	△ 7
特定資産受取利息	2,800	2,807	△ 7
受取入金会金	43,000	32,000	11,000
受取入金会費	43,000	32,000	11,000
受取会費	18,229,300	18,104,160	125,140
通常会員受取会費	15,738,600	15,520,660	217,940
団体会員受取会費	961,500	963,500	△ 2,000
支部会員受取会費	1,529,200	1,620,000	△ 90,800
事業収益	19,768,950	37,997,860	△ 18,228,910
学術誌発行事業収益	9,509,938	9,911,664	△ 401,726
学術集会参加費等収益	10,055,172	27,842,000	△ 17,786,828
支部活動事業収益	203,840	244,196	△ 40,356
受取補助金等	17,096,031	17,430,991	△ 334,960
国際情報発信強化(B)	1,400,008	1,500,011	△ 100,003
日本学術振興会OA刊行補助金	12,300,022	13,200,050	△ 900,028
日本学術振興会公開促進補助金	900,001	0	900,001
受取地方補助金	2,400,000	2,730,930	△ 330,930
富山コンベンションビューロー開催費補助金	96,000	0	96,000
受取寄付金	2,757,662	3,583,000	△ 825,338
雑収	1,034,520	1,335,004	△ 300,484
受取利息	68	89	△ 21
著作権収益	663,520	644,440	19,080
雑収	370,932	690,475	△ 319,543
経常収益計	58,936,463	78,490,033	△ 19,553,570
(2) 経常費用			
事業費	48,473,035	69,777,258	△ 21,304,223
学術集会の開催	11,170,407	30,745,586	△ 19,575,179
英文学術誌の刊行	6,223,223	6,796,767	△ 573,544
公開シンポジウム開催費	778,334	0	778,334
OA刊行費	11,687,168	13,476,900	△ 1,789,732
国際情報発信強化(B)	1,400,007	1,500,010	△ 100,003
支部活動費	1,723,836	2,037,786	△ 313,950
研究の奨励及び研究業績の表彰	2,574,581	2,458,696	115,885
動物学会賞	100,000	100,000	0
奨励金	150,000	150,000	0
日本動物学会OM賞	1,021,000	1,000,000	21,000
川口基金奨励金	467,862	365,600	102,262
論文賞	250,000	300,000	△ 50,000
高校生研究発表奨励	585,719	543,096	42,623
関係学術団体との連絡・協力	92,740	110,000	△ 17,260
委員会活動費	37,711	128,137	△ 90,426
支払与寄付金	250,000	330,326	△ 80,326
給付当	5,846,587	5,895,600	△ 49,013
法定福利費用	937,959	918,855	19,104
退職給付費用	704,320	704,320	0
会議費	80,320	51,222	29,098
旅費	1,205,909	764,554	441,355
電話料	85,170	98,136	△ 12,966
消耗品費	144,040	145,623	△ 1,583
HP・会員名簿DB管理費	496,450	511,467	△ 15,017
光熱水費	59,585	60,263	△ 678
謝金	482,425	577,716	△ 95,291
貸借料	489,744	489,744	0
貸倒損失	336,500	0	336,500
雑費	1,666,019	1,581,279	84,740
為替差損	0	394,271	△ 394,271
管理費	5,603,522	6,108,004	△ 504,482
給料当	1,461,640	1,473,900	△ 12,260
法定福利費用	241,866	269,809	△ 27,943
退職給付費用	176,080	176,080	0
会議費	10,536	165,345	△ 154,809
旅費	359,262	638,195	△ 278,933
電話料	85,165	98,129	△ 12,964
通信運搬費	383,718	297,156	86,562
消耗品費	188,588	220,291	△ 31,703
HP・会員名簿DB管理費	378,540	271,359	107,181
光熱水料	59,582	60,259	△ 677
謝金	1,677,145	1,769,134	△ 91,989
貸借料	489,732	489,732	0
租税公課	0	600	△ 600
雑費	91,668	178,015	△ 86,347
経常費用計	54,076,557	75,885,262	△ 21,808,705
評価損益等調整前当期経常増減額	4,859,906	2,604,771	2,255,135
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	4,859,906	2,604,771	2,255,135
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	4,859,906	2,604,771	2,255,135
一般正味財産期首残高	8,032,655	5,427,884	2,604,771
法人会計区分省略に伴う期首残高調整額	0	0	0
一般正味財産期末残高	12,892,561	8,032,655	4,859,906
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,000,020	1,000,020	0
受取OM賞寄付金	1,000,020	1,000,020	0
特定資産運用利益	54	68	△ 14
特定資産受取利息	54	68	△ 14
一般正味財産への振替額	△ 1,467,862	△ 2,595,600	1,127,738
OM賞基金資産の振替	△ 1,000,000	△ 1,000,000	0
受取寄附金の振替	△ 467,862	△ 1,595,600	1,127,738
当期指定正味財産増減額	△ 467,788	△ 1,595,512	1,127,724
指定正味財産期首残高	28,391,647	29,987,159	△ 1,595,512
指定正味財産期末残高	27,923,859	28,391,647	△ 467,788
III 正味財産期末残高	40,816,420	36,424,302	4,392,118

正味財産増減計算書内訳表

平成29年 7月 1日から平成30年 6月30日まで

公益社団法人 日本動物学会

(単位：円)

科 目	一般会計		合 計
	公益目的事業	法人会計	
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	4,200	0	4,200
基本財産受取利息	4,200	0	4,200
特定資産運用益	2,800	0	2,800
特定資産受取利息	2,800	0	2,800
受取入金	21,500	21,500	43,000
受取会費	9,114,650	9,114,650	18,229,300
通常職員受取会費	7,869,300	7,869,300	15,738,600
団体職員受取会費	480,750	480,750	961,500
支部職員受取会費	764,600	764,600	1,529,200
事業収益	19,768,950	0	19,768,950
学術誌発行事業収益	9,509,938	0	9,509,938
学術集会参加費等収益	10,055,172	0	10,055,172
支部活動事業収益	203,840	0	203,840
受取補助金等	17,096,031	0	17,096,031
国際情報発信強化(B)	1,400,008	0	1,400,008
日本学術振興会 O A 刊行補助金	12,300,022	0	12,300,022
日本学術振興会 公開促進補助金	900,001	0	900,001
受取地開補助金	2,400,000	0	2,400,000
富山コンベンションビューロー開催費補助金	96,000	0	96,000
受取寄付金	2,757,662	0	2,757,662
雑収益	1,034,520	0	1,034,520
受取利息	68	0	68
著作権収益	663,520	0	663,520
雑収益	370,932	0	370,932
経常収益計	49,800,313	9,136,150	58,936,463
(2) 経常費用			
事業費	48,473,035	0	48,473,035
学術集会の開催	11,170,407	0	11,170,407
英文学術誌の刊行	6,223,223	0	6,223,223
公開シンポジウム開催費	778,334	0	778,334
O A 刊行費	11,687,168	0	11,687,168
国際情報発信強化(B)	1,400,007	0	1,400,007
支部活動費	1,723,836	0	1,723,836
研究の奨励及び研究業績の表彰	2,574,581	0	2,574,581
動物学会賞	100,000	0	100,000
奨励会賞	150,000	0	150,000
日本動物学会 O M 賞	1,021,000	0	1,021,000
川口基金奨励金	467,862	0	467,862
論文奨励金	250,000	0	250,000
高校生研究発表奨励	585,719	0	585,719
関係学術団体との連絡・協力	92,740	0	92,740
役員会活動費	37,711	0	37,711
支払寄付金	250,000	0	250,000
給与手当	5,846,587	0	5,846,587
法定福利費用	937,959	0	937,959
退職給付費用	704,320	0	704,320
会議費	80,320	0	80,320
旅費	1,205,909	0	1,205,909
電話料	85,170	0	85,170
消耗品費	144,040	0	144,040
H P ・ 会員名簿 D B 管理費	496,450	0	496,450
光熱水料	59,585	0	59,585
謝礼金	482,425	0	482,425
賃借料	489,744	0	489,744
貸倒損失	336,500	0	336,500
雑費	1,666,019	0	1,666,019
管理費	0	5,603,522	5,603,522
給料手当	0	1,461,640	1,461,640
法定福利費用	0	241,866	241,866
退職給付費用	0	176,080	176,080
会議費	0	10,536	10,536
旅費	0	359,262	359,262
電話料	0	85,165	85,165
通信運搬費	0	383,718	383,718
消耗品費	0	188,588	188,588
H P ・ 会員名簿 D B 管理費	0	378,540	378,540
光熱水料	0	59,582	59,582
謝礼金	0	1,677,145	1,677,145
賃借料	0	489,732	489,732
雑費	0	91,668	91,668
経常費用計	48,473,035	5,603,522	54,076,557
評価損益等調整前当期経常増減額	1,327,278	3,532,628	4,859,906
損益評価等計	0	0	0
当期経常増減額	1,327,278	3,532,628	4,859,906
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	1,327,278	3,532,628	4,859,906
一般正味財産期首残高	△ 1,354,695	9,387,350	8,032,655
法人会計区分省略に伴う期首残高調整額	0	0	0
一般正味財産期末残高	△ 27,417	12,919,978	12,892,561
II 指定正味財産増減の部			
受取寄付金	1,000,020	0	1,000,020
受取 O M 賞寄付金	1,000,020	0	1,000,020
特定資産運用益	54	0	54
特定資産受取利息	54	0	54
一般正味財産への振替額	△ 1,467,862	0	△ 1,467,862
O M 賞基金資産の振替	△ 1,000,000	0	△ 1,000,000
受取寄附金の振替	△ 467,862	0	△ 467,862
当期指定正味財産増減額	△ 467,788	0	△ 467,788
指定正味財産期首残高	28,391,647	0	28,391,647
指定正味財産期末残高	27,923,859	0	27,923,859
III 正味財産期末残高	27,896,442	12,919,978	40,816,420

収支計算書

平成29年 7月 1日から平成30年 6月30日まで

公益社団法人 日本動物学会

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差 異
I 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
基本財産運用利息収入	5,000	4,200	800
基本財産利息収入	5,000	4,200	800
特定資産運用利息収入	20,000	2,854	17,146
特定資産利息収入	20,000	2,854	17,146
入会費収入	40,000	43,000	△ 3,000
入会費収入	40,000	43,000	△ 3,000
会費収入	17,474,400	18,229,300	△ 754,900
通常役員会費収入	15,000,000	17,267,800	△ 2,267,800
通常役員会費収入	15,000,000	15,738,600	△ 738,600
北海道支部	0	96,000	△ 96,000
北海道支部	0	104,000	△ 104,000
北海道支部	0	622,400	△ 622,400
北海道支部	0	200,400	△ 200,400
近畿支部	0	212,800	△ 212,800
近畿支部	0	171,200	△ 171,200
九州支部	0	122,400	△ 122,400
九州支部	0	122,400	△ 122,400
団体役員会費収入	1,000,000	961,500	38,500
団体役員会費収入	1,474,400	0	1,474,400
北海道支部	150,000	0	150,000
北海道支部	150,000	0	150,000
北海道支部	500,800	0	500,800
北海道支部	174,800	0	174,800
近畿支部	165,600	0	165,600
近畿支部	183,200	0	183,200
九州支部	150,000	0	150,000
九州支部	150,000	0	150,000
事業収入	19,350,000	19,768,950	△ 418,950
事業収入	8,500,000	9,509,938	△ 1,009,938
学術誌発行購読料収入	7,200,000	8,161,438	△ 961,438
学術誌掲載料収入	300,000	300,000	0
学術誌代金収入	1,000,000	1,048,500	△ 48,500
学術集会参加費等収入	10,850,000	10,055,172	794,828
学術集会参加費等収入	10,850,000	0	10,850,000
学術集会参加費	0	5,828,000	△ 5,828,000
学術集会参加費	0	3,510,000	△ 3,510,000
学術集会参加費	0	110,000	△ 110,000
学術集会参加費	0	370,000	△ 370,000
学術集会参加費	0	237,172	△ 237,172
学術集会参加費	0	203,840	△ 203,840
学術集会参加費	0	203,840	△ 203,840
補助活動収入	14,600,000	17,096,031	△ 2,496,031
補助活動収入	1,400,000	1,400,008	△ 8
国際情報発信強化(B)	12,300,000	12,300,022	△ 22
国際情報発信強化(B)	900,000	900,001	△ 1
国際情報発信強化(B)	0	2,400,000	△ 2,400,000
国際情報発信強化(B)	0	96,000	△ 96,000
国際情報発信強化(B)	0	2,289,820	△ 2,289,820
国際情報発信強化(B)	0	2,289,820	△ 2,289,820
国際情報発信強化(B)	800,000	1,034,520	△ 234,520
国際情報発信強化(B)	0	68	△ 68
国際情報発信強化(B)	500,000	663,520	△ 163,520
国際情報発信強化(B)	300,000	370,932	△ 70,932
事業活動収入計	52,289,400	58,468,675	△ 6,179,275
2. 事業活動支出			
事業活動支出	45,294,400	47,768,715	△ 2,474,315
事業活動支出	10,850,000	11,170,407	△ 320,407
事業活動支出	0	820,368	△ 820,368
事業活動支出	3,200,000	3,792,343	△ 592,343
事業活動支出	1,300,000	0	1,300,000
事業活動支出	1,200,000	1,349,904	△ 149,904
事業活動支出	100,000	198,711	△ 98,711
事業活動支出	1,200,000	1,194,600	5,400
事業活動支出	50,000	176,201	△ 126,201
事業活動支出	600,000	436,242	163,758
事業活動支出	3,200,000	2,993,838	206,162
事業活動支出	0	208,200	△ 208,200
事業活動支出	7,170,000	6,223,223	946,777
事業活動支出	3,000,000	1,935,216	1,064,784
事業活動支出	100,000	58,752	41,248
事業活動支出	70,000	86,351	△ 16,351
事業活動支出	4,000,000	4,142,904	△ 142,904
事業活動支出	900,000	778,334	121,666
事業活動支出	12,300,000	11,687,168	612,832
事業活動支出	12,300,000	2,451,400	9,848,600
事業活動支出	0	454,562	△ 454,562
事業活動支出	0	6,414,353	△ 6,414,353
事業活動支出	0	813,456	△ 813,456
事業活動支出	0	1,553,397	△ 1,553,397
事業活動支出	1,400,000	1,400,007	△ 7
事業活動支出	1,400,000	763,776	636,224
事業活動支出	0	400,432	△ 400,432
事業活動支出	0	120,432	△ 120,432
事業活動支出	0	115,367	△ 115,367
事業活動支出	1,474,400	1,723,836	△ 249,436
事業活動支出	2,200,000	2,574,581	△ 374,581
事業活動支出	200,000	100,000	100,000
事業活動支出	100,000	150,000	△ 50,000
事業活動支出	1,000,000	1,021,000	△ 21,000
事業活動支出	300,000	467,862	△ 167,862
事業活動支出	300,000	250,000	50,000
事業活動支出	300,000	585,719	△ 285,719
事業活動支出	60,000	92,740	△ 32,740
事業活動支出	150,000	37,711	112,289
事業活動支出	50,000	10,271	39,729
事業活動支出	100,000	27,440	72,560
事業活動支出	200,000	250,000	△ 50,000
事業活動支出	4,900,000	5,846,587	△ 946,587
事業活動支出	800,000	937,959	△ 137,959
事業活動支出	10,000	80,320	△ 70,320
事業活動支出	230,000	1,205,909	△ 975,909
事業活動支出	105,000	85,170	19,830
事業活動支出	285,000	144,040	140,960
事業活動支出	400,000	496,450	△ 96,450
事業活動支出	60,000	59,585	415
事業活動支出	650,000	482,425	167,575
事業活動支出	500,000	489,744	10,256
事業活動支出	0	336,500	△ 336,500
事業活動支出	650,000	1,666,019	△ 1,016,019
事業活動支出	6,345,000	5,427,442	917,558
事業活動支出	2,100,000	1,461,640	638,360
事業活動支出	300,000	241,866	58,134
事業活動支出	40,000	10,536	29,464
事業活動支出	700,000	359,262	340,738
事業活動支出	105,000	85,165	19,835
事業活動支出	500,000	383,718	116,282
事業活動支出	150,000	188,588	△ 38,588
事業活動支出	300,000	378,540	△ 78,540
事業活動支出	100,000	59,582	40,418
事業活動支出	1,350,000	1,677,145	△ 327,145
事業活動支出	500,000	489,732	10,268
事業活動支出	200,000	91,668	108,332
事業活動支出計	51,639,400	53,196,157	△ 1,556,757
事業活動収支差額	650,000	5,272,518	△ 4,622,518
II 投資活動収支の部			
1. 投資活動収入			
OM賞基金取崩収入	0	1,000,000	△ 1,000,000
川口基金取崩収入	0	467,862	△ 467,862
投資活動収入計	0	1,467,862	△ 1,467,862
2. 投資活動支出			
特定資産取得支出	0	880,400	△ 880,400
退職給付引当資産取得支出	0	880,400	△ 880,400
OM賞基金資産繰入支出	0	2,000,020	△ 2,000,020
川口基金資産繰入支出	0	1,500,054	△ 1,500,054
投資活動支出計	0	4,380,474	△ 4,380,474
投資活動収支差額	0	△ 2,912,612	2,912,612
III 財務活動収支の部			
1. 財務活動収入			
財務活動収入計	0	0	0
2. 財務活動支出			
財務活動支出計	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0
当期収支差額	650,000	2,359,906	△ 1,709,906
前期繰越収支差額	0	8,155,314	△ 8,155,314
次期繰越収支差額	650,000	10,515,220	△ 9,865,220

財産目録

平成30年6月30日現在

公益社団法人 日本動物学会

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額	
(流動資産)				
現金	手元保管	運転資金として	106,765	
預金	郵便振替貯金：本郷郵便局	運転資金として	7,135,553	
	普通預金：みずほ銀行本郷支店 寄附金口	運転資金として	167,786	
	普通預金：みずほ銀行本郷支店	運転資金として	6,972,029	
	普通預金：三菱東京UFJ銀行 春日町支店	運転資金として	9,606	
	支部現金預金	運転資金として	1,989,360	
	未収金	論文掲載者に対する未収金	公益目的事業に係る未収入金である。	593,200
前払金			2,941,565	
	BioMedCentoralへの前払金	公益目的事業に係る前払金である。	2,630,421	
立替金	学会大会の前払金	公益目的事業に係る前払金である。	311,144	
	科研費立替金	公益目的事業に係る立替金である。	3,994,120	
	UniBioPress、日本疫学会 に対する立替金	事務所電気料等立替分である。	3,200	
流動資産合計			23,913,184	
(固定資産)				
基本財産			12,000,000	
特定資産	定期預金	定期預金：三菱東京UFJ銀行 春日町支店	公益目的保有財産であり、運用益を 公営目的事業の用に供している。	10,000,000
	定期預金	定期預金：みずほ銀行本郷支店	公益目的保有財産であり、運用益を 公営目的事業の用に供している。	2,000,000
	退職給付引当資産	郵便振替貯金：本郷郵便局	退職給付引当金見合の引当資産とし て管理している。	11,155,642
	OM賞基金資産			11,012,577
	川口基金資産	普通預金：みずほ銀行本郷支店 定期預金：みずほ銀行本郷支店	公益目的保有財産であり、公益目的 事業の用に供している。	3,012,577 8,000,000
その他固定資産				6,411,282
				877,341
	図書		公益目的保有財産であり、公益目的 事業の用に供している。	250,000
	什器備品	パソコン 1台	管理業務の用に供している。	1
	電話加入権	電話加入権	公益目的保有財産であり、公益目的 事業、管理業務で使用している共用 資産である。	72,800
保証金	小形崇（本郷MTビル4階）	公益目的保有財産であり、公益目的 事業、管理業務で使用している共用 資産である。	554,540	
固定資産合計			41,456,842	
資産合計			65,370,026	
(流動負債)				
未払金			469,745	
通信運搬費	ヤマト運輸㈱	公益目的事業及び管理業務に係る配 送料である。	26,902	
消耗品費	コニカミノルタビジネスソリューションズ ㈱	公益目的事業及び管理業務に使用し ている備品に係るものである。	16,404	
社会保険料	年金事務所	公益目的事業及び管理業務に従事す る職員に係る社会保険料の法人負担 分である。	269,589	
編集費	編集人	公益目的事業に係る編集料である。	90,000	
謝金	職員	公益目的事業及び管理業務に従事す る職員の6月分給与である。	66,850	
前受金	学会大会参加費等	翌事業年度開催の学会大会の参加費 等である。	6,823,000	
前受会費	平成30年度会費	翌事業年度の会費である。	5,479,200	
預り金			383,419	
社会保険料	職員	社会保険料の本人負担分である。	201,543	
源泉所得税-給	職員	職員給与に係る源泉所得税である。	180,876	
その他	日本古生物学会	立替費用の前受分である。	1,000	
未払消費税等	税務署等	平成29年度の事業活動に対する法人 税等の未払額である。	242,600	
流動負債合計			13,397,964	
(固定負債)				
退職給付引当金	職員に対するもの	公益目的事業及び管理目的の業務に 従事する職員の退職給付金の引当金 である。	11,155,642	
固定負債合計			11,155,642	
負債合計			24,553,606	
正味財産			40,816,420	

平成30-31年度理事、監事候補者

理事

勝 義直
山下 正兼
渡辺 明彦
小金澤 雅之
阿形 清和
岡 良隆
兵藤 晋
稲葉 一男
武田 洋幸
加藤 尚志
後藤太一郎
松田 恒平
沼田英治
志賀 向子
植木 龍也
浮穴 和義
岡田 二郎
飯田 弘
小柴 和子
吉田 学

監事

八杉 貞雄
高橋 洋